

高校生の語彙力とリスニング力の関係 —音声語彙力と筆記語彙力を比較して—

The Relationship between Vocabulary Knowledge and Listening Comprehension Ability among High School Students: Comparing Aural Vocabulary Knowledge with Written Vocabulary Knowledge

外国語科 高木 哲也

外国語科 物井 真一

1. はじめに

1.1. 音声語彙力とは

近年、第二言語習得語彙研究において音声語彙力が注目を浴び始めている。音声語彙力とは「話し言葉の音韻を正確に認識し、その音韻を聞き手が持つ心的辞書¹の中にある既存の表現に素早くマッピングするための知識 (Aural Vocabulary Knowledge (AVK) is the store of knowledge that facilitates accurate perception of the phonological form of spoken words and enables rapid mapping of those forms onto existing representations held in the mental lexicon of the listener, Matthew, 2021, p.439)」の豊富さを表し、筆記語彙力と比較して低い傾向である一方、リスニング力やスピーキング力との相関がより強いことが示唆されている(内原, 2023a, 2023b)。第二言語習得研究における語彙力(サイズ)を測定するテストは筆記形式偏重であることが指摘されており、特に日本人英語学習者が直面する「読めばわかるが、聞くと理解できない」課題を解決する方策として、筆記語彙力だけでなく音声語彙力を向上させることが重要であると考えられる。

1.2. 筆記語彙力とリスニング力の関係に関する先行研究

これまで多くの先行研究より、筆記語彙力とリスニング力には正の相関関係が報告されている(ex. Matthews, 2018; Matthews & Cheng, 2015; Staehr, 2009)。この結果は、日本のようなEFL環境における実証研究(ex. Wang & Treffers-Daller, 2017; Staehr, 2009)においても同様であり、視覚的に語彙を認知する筆記語彙力はリスニング力と密接に関わっていることがわかっている。

1.3. 音声語彙力とリスニング力の関係に関する先行研究

筆記語彙力と比較して実証研究の数は豊富ではない(ex. Cheng & Matthews, 2018; Cai, 2020; McLean et al., 2015; Wallace, 2020)。この原因は、内原(2023a, 2023b)が指摘しているとおり、国内外において語彙力とは筆記語彙力のみを表すことがほとんどであったためであり、特に国内の英語指導場面においては筆記語彙指導偏重の様相がある。Staehr(2009,

p.597) は、「さらに、語彙知識と第二言語リスニング理解力の関係についての研究は、『理想的には、対象単語を読むのではなく、聞く語彙テストに基づくべきである』(“Further, any study of the relationship between vocabulary knowledge and L2 listening comprehension “should ideally be based on a vocabulary test that involves hearing the target words rather than reading them.”)」と述べており、その後音声語彙力を測定することの重要性が認知され始めた結果、音声語彙力を測定するテストが複数開発されてきている (ex. Cheng & Matthews, 2018; McLean, Kramer, & Beglar, 2015; Saito, Uchihara, Takizawa, & Suzukida, 2023)。

国内における音声語彙力とリスニング力の関係を検証した実証研究 (ex. Aoki, 2022; Hamada & Yanagawa, 2023; Mizumoto & Shimamoto, 2008; Taguchi, 2019; Uchihara & Harada, 2018) によると、学習者の音声語彙力は筆記語彙力よりも低いが、リスニング力と正の相関関係がより強い傾向が見られている。中には、音声語彙力とスピーキング力との関係について検証したのも出始めており、リスニング力と同様に、音声語彙力は筆記語彙力と比較してスピーキング力ともより強い正の相関が見られたことが報告されている (Takizawa et al., in preparation, cited in 内原, 2023b)。つまり、実際に聞いたり話したりする場面で使える語彙力とは、音声刺激による素早いマッピング力、すなわち音声語彙力であることがわかりつつあると言える。

Uchihara (2023) は、日本人大学生を対象に 10 週に渡って英単語テスト (20 問) を実施した。音声刺激のみで実施するグループと、筆記刺激のみで実施するグループを設けて、プレ・ポストテスト (音声、筆記それぞれ) を実施して検証した結果、音声グループの方が筆記グループよりも音声語彙テストの点数が向上したことがわかった。さらに、筆記語彙テストの点数は両グループ間で差がなかったことも明らかになった。つまり、音声刺激のみで英単語テストを実施しても筆記語彙力を低下させる影響はない可能性がある。音声のみの単語テストを定期的実施することで、筆記語彙力に影響なく音声語彙力を鍛えることができる可能性が示唆された点は教育的示唆に富む結果であると考えられる。さらに、音声グループの参加者は、音声語彙面の学習方法に向かう波及効果も見られた。英語教師の多くは、日々の英単語テストは通例筆記形式である、という固定観念を持っている。

1.4. 研究課題

これまで、国内において高校生を対象とした音声語彙力に関する実証研究はまだ報告されていない。先行研究より、音声語彙力は筆記語彙力と比較してリスニング力やスピーキング力との正の相関が高いことが示唆されている。つまり、リスニングやスピーキングで実際に使える語彙力を向上させるために、音声語彙力の向上は必須であると考えられる。今後、教室現場における音声語彙力の効果的な指導法を提案する目標を見据えた上で、本研究は日本人高校生を対象に音声語彙力とリスニング力の関係に関わる以下の 3 点を研究課題とする。

- 研究課題1 音声語彙力と筆記語彙力に差があるか
 研究課題2 音声語彙力と筆記語彙力、それぞれとリスニング力の関係はどのようなものか
 研究課題3 音声語彙力が筆記語彙力よりも高い英単語、および筆記語彙力が音声語彙力よりも高い英単語はどのようなものがあるか

2. 方法

2.1. 参加者

首都圏の高校1年生を対象に、令和5年4–6月の授業内で音声語彙力を測定するために開発された Listening Vocabulary Levels Test (以降, LVLT, McLean et al., 2015), その筆記版テストである New Vocabulary Levels Test (以降, NVLT, McLean & Kramer, 2015), およびオリジナルのリスニング問題を課した。全てのテストを受けた生徒の内、回答に不備がない生徒127名を分析対象とする。

2.2. 実践手順とマテリアル

図1は、実践手順を示す。音声語彙力を測定するために開発された LVLT は、多肢選択式の問題 (Part 1-5: 24 題, Part 6: 30 題, 合計 150 題) である。日本人学習者を対象に開発されたものであり、「単語→英文」のセットが一度だけ音声で流れる。対象語彙は British National Corpus (BNC) や Corpus of Contemporary American English (COCA) 1000 [Part 1] — 5000 [Part 5] レベル+Academic Word List (AWL) [Part 6] で構成されている。本研究では、参加者は問題冊子を見ながら音声を聞き、同時に Google フォームに解答する形式で行った(約 30 分)。LVLT の筆記版である NVLT は、音声刺激ではなく文字刺激である点を除いて全て同様に実施した。リスニングテストは授業内で扱った題材や言語材料を含めたオリジナル問題を使用した (ディクテーション問題や多肢選択式問題を含む 13 分程度で合計 25 点)。



図1 実践手順

2.3. 分析方法

研究課題1および2に対しては、分析対象127名の生徒それぞれのテストの得点を、SPSSで統計分析(対応のある t 検定, ピアソンの積率相関分析, 重回帰分析)した。さらに研究課題3に対しては、LVLTとNVLTの得点差が大きい問題を抽出(得点差が10点以上20点未満のもの, 得点差が20点以上のもの)して対象語彙を個別に分析した。

3. 結果と考察

表1は、各テストの各Partの平均点、得点率、そして標準偏差を表す。両テスト共に、Part1・2は8割を超える高い得点率であり、Part3-6は6割前後の得点率であった。各Partと合計点、それぞれ全てNVLTがLVLTよりも高い得点を記録したため、先行研究同様に参加者の筆記語彙力は音声語彙力よりも高い傾向が見られたことがわかった。

表1 LVLTとNVLTの得点の記述統計 (N=127)

	LVLT			NVLT		
	平均	%	標準偏差	平均	%	標準偏差
Part 1	22.63	94.29	.12	23.08	96.16	.08
Part 2	19.44	81.00	.24	20.87	86.98	.19
Part 3	14.83	61.78	.26	15.48	64.50	.26
Part 4	13.86	57.74	.30	15.20	63.35	.28
Part 5	14.81	61.71	.23	16.00	66.67	.24
Part 6	17.87	59.58	.35	18.05	60.16	.40
合計	103.44	68.96	1.16	108.69	72.46	1.13

注 Part 1-5は24題、Part 6は30題、合計150題

表2は、各テストの各Partの得点、そして合計得点のそれぞれの間には差があるかを対応のある t 検定で分析した結果を示す。Part 6を除く全てのPart、そして合計得点において有意差が見られたため、記述統計を考察した結果同様に、参加者の音声語彙力と筆記語彙力の間には統計的な有意差が示された ($p < .001$)。つまり、難易度の高い語彙は音声語彙力と筆記語彙力に差がない可能性がある。

表2 LVLTとNVLTの各Partの平均と対応のある t 検定の結果 (N=127)

	LVLT	NVLT	t 値	p 値	効果量(r)
Part 1	22.63	23.08	-4.08	<.001	.34
Part 2	19.44	20.87	-7.12	<.001	.54
Part 3	14.83	15.48	-3.01	<.001	.26
Part 4	13.86	15.20	-5.35	<.001	.43
Part 5	14.81	16.00	-5.19	<.001	.42
Part 6	17.87	18.05	-.54	.59	.05
合計	103.44	108.69	-7.65	<.001	.56

注 Part 1-5は24題、Part 6は30題、合計150題

表3は、各テストとリスニングテストの合計得点の間に見られる相関を示す。ピアソンの積率相関係数が示す通り、両テスト共にリスニングテストとの間に中程度の正の相関が見られた ($p < .01$)。わずかではあるが、NVLTよりもLVLTの方がより高い相関が見られた点も、先行研究が示す結果と同様であったため、リスニング力とより密接に関係する語彙力は筆記形式ではなく音声形式であることが本研究からも示唆された。

表3 LVLT, NVLT およびリスニングテストの得点のピアソンの積率相関係数 (N=127)

	LVLT (合計点)	NVLT (合計点)	リスニング
LVLT (合計点)	1		
NVLT (合計点)	.821**	1	
リスニング	.493**	.457**	1

注 * $p < .05$, ** $p < .01$

表4と表5は各テストの各Partの得点とリスニングテストの得点の間に見られる相関を示す。LVLTでは、Part1・Part2の得点とリスニングテストの得点の間に強い相関が見られなかった。言い換えれば、Part3以降の各Partの得点差がよりリスニングテストの得点と強い相関だったため、オリジナルのリスニング問題で高得点を取ることとPart3以上の音声語彙力(特にPart3, 4, 6)には関係があることが示唆された。しかし、NVLTでは多少様相が異なり、Part2以上の各Partとリスニングテストの得点の間の相関の強さが比較的強いことが示された。特にPart4はLVLT同様に中程度の相関が見られたため、LVLTを含めて総合的に捉えると、オリジナルのリスニングテスト問題で高得点を取ることとPart4の語彙力(音声、筆記共に)にはより密接な関係があったことが示された。

表4 LVLTの各Partとリスニングテストの得点のピアソンの積率相関係数 (N=127)

	Part 1	Part 2	Part 3	Part 4	Part 5	Part 6	合計	リスニング
Part 1	1							
Part 2	.421**	1						
Part 3	.449**	.416**	1					
Part 4	.462**	.438**	.515**	1				
Part 5	.373**	.511**	.547**	.551**	1			
Part 6	.418**	.576**	.608**	.518**	.585**	1		
合計	.611**	.732**	.781**	.776**	.781**	.850**	1	
リスニング	.254**	.243**	.445**	.449**	.338**	.445**	.493**	1

注 * $p < .05$, ** $p < .01$

表5 NVLT の各 Part とリスニングテストの得点のピアソンの積率相関係数 (N=127)

	Part 1	Part 2	Part 3	Part 4	Part 5	Part 6	合計	リスニング
Part 1	1							
Part 2	.393**	1						
Part 3	.389**	.557**	1					
Part 4	.340**	.571**	.520**	1				
Part 5	.224*	.443**	.454**	.534**	1			
Part 6	.399**	.580**	.548**	.568**	.506**	1		
合計	.499**	.765**	.773**	.805**	.723**	.855**	1	
リスニング	.274**	.332**	.367**	.454**	.278**	.351**	.457**	1

注 * $p < .05$, ** $p < .01$

表6・7は、両テストの各Partがどれだけリスニングテストの得点を予測できるかを分析した重回帰分析の結果を示す。LVLTでは、Part 4, 6, 3の順番にリスニングテストの得点を予測することが示された ($2.413 + .271 \times LVLT4 + .245 \times LVLT6 + .214 \times LVLT3$, 調整済みR2乗=.26, ($p < .001$))。中程度の難易度の音声語彙力がリスニング力により影響している可能性がある。教室現場を想定すると、中程度の音声語彙力を向上させる指導法や学習法が確立されれば、高校生の音声語彙力が向上してリスニング力の向上にも寄与することが考えられる。一方、NVLTでは、Part 4のみの筆記語彙力がリスニングテストの得点をより予測したことが示された ($-12.198 + .321 \times LVLT4$, 調整済みR2乗=.20, ($p < .001$))。この結果から、やはり筆記語彙力よりも音声語彙力の方がリスニング力とより強い関係があると言える。

表6 LVLT の各 Part の得点とリスニングテストの得点の重回帰分析 (強制投入法)

	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
	B	標準誤差	ベータ			下限	上限
(定数)	2.413	.236		.334	.739	-11.913	16.740
LVLT1	-.107	.367	-.027	-.292	.771	-.834	.620
LVLT2	-.172	.200	-.086	-.861	.391	-.569	.224
LVLT3	.399	.196	.214	2.03	.045	.010	.787
LVLT4	.440	.165	.271	2.672	.009	.114	.767
LVLT5	-.039	.227	-.018	-.17	.865	-.488	.411
LVLT6	.337	.156	.245	2.166	.032	.029	.645

表7 NVLTの各Partの得点とリスニングテストの得点の重回帰分析（強制投入法）

	非標準化係数		標準化係数	t 値	有意確率	B の 95.0% 信頼区間	
	B	標準誤差	ベータ			下限	上限
(定数)	-12.198	12.184		-1.001	.319	-36.322	11.926
NVLT1	.545	.561	.088	.972	.333	-.565	1.655
NVLT2	.024	.286	.009	.085	.932	-.542	.591
NVLT3	.243	.197	.131	1.234	.220	-.147	.633
NVLT4	.548	.188	.321	2.912	.004	.175	.921
NVLT5	-.012	.199	-.006	-.061	.952	-.405	.381
NVLT6	.072	.136	.059	.53	.597	-.197	.342

表8・9は、両テスト間で10点以上20点未満の得点差のあった語彙を示す。LVLTLよりNVLTが高かった語彙、つまり対象語彙に関する筆記語彙力の方が音声語彙力と比較してある程度高かった語彙は31あった。特にPart5が9つ、Part3が7つあり半数以上を占めた。対してNVLTよりLVLTLが高かった語彙、つまり対象語彙に関する音声語彙力の方が筆記語彙力と比較してある程度高かった語彙は9あった。特にPart6が4つあり半数近くを占めた。音声語彙力よりも筆記語彙力が高いことは先行研究や本研究の結果から分かっているが、対象語彙の中には逆に筆記語彙力よりも音声語彙力の方が高い可能性があるものが明らかになった点は興味深い。これらの語彙は視覚的な刺激の場合は正答を選べないが、音声刺激の場合は正答を選ぶことができた参加者が一定数いたことになる。難易度の高い語彙が半数以上を占めており、難易度の高い語彙であっても音声インプットは十分与えられている一方、その語彙に対する筆記インプットは足りない場合があることが示唆された。

表8 LVLTLよりNVLTが10点以上20点未満高かった語彙リスト (N=127)

通し番号	Part	問題番号	対象語彙	英文	得点差
1	1	10	actual	The <u>actual</u> one is larger.	12
2	1	11	any	Does she have <u>any</u> friends?	12
3	1	14	cause	He <u>caused</u> the problem.	10
4	2	1	maintain	Can they <u>maintain</u> it?	17
5	2	2	period	It was a difficult <u>period</u> .	17
6	2	6	drawer	The <u>drawer</u> was empty.	17
7	2	22	seal	They <u>sealed</u> it.	14
8	2	23	warn	They were <u>warned</u> .	11
9	3	1	restore	It has been <u>restored</u> .	10

10	3	5	remedy	We found a good <u>remedy</u> .	17
11	3	8	fuel	Do you have any <u>fuel</u> ?	15
12	3	13	solution	There is no <u>solution</u> .	10
13	3	16	tunnel	We need a <u>tunnel</u> here.	17
14	3	18	review	The committee <u>reviewed</u> the plan.	17
15	3	19	mode	The <u>mode</u> of production has changed.	13
16	4	1	patience	He has a lot of <u>patience</u> .	10
17	4	3	weep	He <u>wept</u> .	10
18	4	22	plunge	It <u>plunged</u> .	10
19	5	1	scrub	He is <u>scrubbing</u> it.	12
20	5	4	compost	We need some <u>compost</u> .	12
21	5	5	miniature	It is a <u>miniature</u> .	10
22	5	9	rove	He is <u>roving</u> .	15
23	5	13	query	I have a <u>query</u> .	17
24	5	14	mug	This <u>mug</u> needs a wash.	17
25	5	21	commemorate	We must <u>commemorate</u> his actions.	11
26	5	22	crook	They were <u>crooks</u> .	17
27	5	24	warfare	Modern <u>warfare</u> is frightening.	19
28	6	7	external	They worried about the <u>external</u> damage.	11
29	6	9	migrate	The animals began to <u>migrate</u> .	18
30	6	12	arbitrary	Her decision was <u>arbitrary</u> .	17
31	6	16	legal	Is this meeting place <u>legal</u> ?	13

表9 NVLT より LVLТ が 10 点以上 20 点未満高かった語彙リスト (N=127)

通し番号	Part	問題番号	対象語彙	英文	得点差
1	2	16	pressure	They used too much <u>pressure</u> .	12
2	3	23	constituent	This is an important <u>constituent</u> .	12
3	4	13	originate	It <u>originated</u> here.	10
4	5	2	dinosaur	The children were pretending to be <u>dinosaurs</u> .	11
5	5	18	circus	We went to the <u>circus</u> .	15
6	6	15	colleague	That is my <u>colleague</u> .	15
7	6	22	recover	The men <u>recovered</u> their strength.	18
8	6	29	notwithstanding	<u>Notwithstanding</u> John's feelings, Allison went to France.	12
9	6	30	perspective	You have a good <u>perspective</u> .	18

表 10・11 は、両テスト間で 20 点以上の得点差のあった語彙とそれぞれの得点差を示す。LVLТ より NVLT が高かった語彙、つまり対象語彙に関する筆記語彙力の方が音声語彙力と比較してとても高かった語彙は 11 あった。特に Part 4 が 4 つ、Part 5 が 3 つあり半数以上を占めた。pro や item など、難易度の高くない語彙であっても音声語彙力が不足している可能性があり、より豊富に音声インプットを与えることの重要性が示唆された。対して NVLT より LVLТ が高かった語彙、つまり対象語彙に関する音声語彙力の方が筆記語彙力と比較してとても高かった語彙は 2 つのみであり多くはなかった。ある語彙に対して、音声語彙力が筆記語彙力よりもとても高い場合があることが示唆された。今後は、このような結果に至った指導の過程（それぞれの語彙の音声インプット・筆記インプットの有無等）を考察することや、音声語彙力の向上を目指した指導を経てその差が小さくなるのか、などについての実践・研究が期待される。

表 10 LVLТ より NVLT が 20 点以上高かった語彙リスト (N=127)

通し番号	パート	問題番号	対象語彙	英文	得点差
1	2	7	pub	They went to the <u>pub</u> .	29
2	2	9	pro	He's a <u>pro</u> .	61
3	4	15	amateur	She is an <u>amateur</u> player.	48
4	4	16	evacuate	They were <u>evacuated</u> .	22
5	4	18	marble	It was made of <u>marble</u> .	28
6	4	20	sheriff	The <u>sheriff</u> was friendly.	22
7	5	10	divert	The rivers were <u>diverted</u> .	25
8	5	16	slaughter	We read about the <u>slaughter</u> in the paper.	27
9	5	23	volt	How many <u>volts</u> were used?	24
10	6	3	item	The next <u>item</u> is very important.	41
11	6	21	pursue	This year she will <u>pursue</u> the group's goals.	21

表 11 NVLT より LVLТ が 20 点以上高かった語彙リスト (N=127)

通し番号	パート	問題番号	対象語彙	英文	得点差
1	3	22	devastate	The city was <u>devastated</u> .	24
2	6	23	diverse	Having <u>diverse</u> information is important.	37

4. 結論

研究課題 1「音声語彙力と筆記語彙力に差があるか」に対しては、LVLТ と NVLT の各 Part および合計点の間には有意な差が見られたため、参加者の音声語彙力と筆記語彙力に差が

あることが示唆された。研究課題2「音声語彙力と筆記語彙力、それぞれとリスニング力の関係はどのようなものか」に対しては、LVLTの合計点はNVLTの合計点と比較してリスニングテストの得点とより強い相関が見られた(LVLT: 0.49; NVLT: 0.45, $p < .01$)。また、リスニングテストの得点により影響を与えている可能性の高いPartはLVLTではPart 3, 4, 6, 対してNVLTではPart 4のみであった。研究課題3「音声語彙力が筆記語彙力よりも高い英単語、および筆記語彙力が音声語彙力よりも高い英単語はどのようなものがあるか」に対しては、音声語彙力よりも筆記語彙力が高い語彙が圧倒的に多い一方、ある程度の数の語彙は筆記語彙力よりも音声語彙力が高かった。そのような語彙のいくつかは、綴りから音声化する難易度の高いもの(例えば dinosaur)であり、故に正しい発音の音声刺激のみの方が正答を選べた参加者が多かったと考えられる。

5.本研究の課題と教育的示唆

本研究の課題を3点述べる。第一に、研究デザインの都合、LVLTを実施した約1ヵ月後にNVLTを実施したため、テスト-再テスト効果がNVLTの得点に影響を与えた可能性がある。次に、筆者らが作成したオリジナルのリスニングテストの語彙とLVLT, NVLTそれぞれの語彙に著しい重なりはないが、その信頼性や妥当性には検討の余地があると考えられる。最後に、本研究では音声語彙力と筆記語彙力それぞれとリスニング力のみを対象にした点である。例えばスピーキング力やリーディング力との関係についても検証をすることで、それぞれの語彙力が実際にどの技能にどのくらい強い影響を与えているか明らかになり、音声語彙力を測定することや向上させることの意義がさらに出るだろう。

本研究は、高校生を対象とした音声語彙力に関する実態を報告するものである。先行研究と同様に、筆記語彙力と比較して音声語彙力は有意に低く、特にLVLTにおいてPart 3, 4, 6の中程度の音声語彙力がリスニングテストの得点により関係がある可能性が示唆された。先行研究では、未知語の学習時に様々な音声インプットを繰り返し与えることや英単語のストレスを指導すること(内原, 2022)、音声刺激による英単語テストを定期的実施することで学習者の学習ストラテジーの変容を促すこと(Uchihara, 2023)が音声語彙力を向上させる指導法として提案されている。今後、スピーキングやリスニングで実際に使える語彙力、つまり音声語彙力の重要性がさらに認知され、小中高の教室現場においても音声語彙力向上を目指した指導や実践が増えることが期待される。

注

¹ mental lexicon (心的辞書) は、ある言語使用者がその言語に関して頭の中に持っている情報の集合を表す(白畑・冨田・村野井・若林, 2019)。

- ² 本稿の内容は、第47回関東甲信越英語教育学会埼玉研究大会（2023年8月26日および27日、オンライン）における筆者らによる自由研究発表「日本人高校生の音声語彙力および筆記語彙力とリスニング力の関係」に基づき、追加分析をした上で加筆・修正したものである。

引用文献

- Cai, H. (2020). Relating lexical and syntactic knowledge to academic English listening: The importance of construct representation. *Frontiers in Psychology, 11*, 494, 1–10. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2020.00494>
- Cheng, J., & Matthews, J. (2018). The relationship between three measures of L2 vocabulary knowledge and L2 listening and reading. *Language Testing, 35*(1), 3–25. <https://doi.org/10.1177/0265532216676851>
- Hamada, Y. & Yanagawa, K. (2023). Aural vocabulary, orthographic vocabulary, and listening comprehension. *International Review of Applied Linguistics in Language Teaching*. <https://doi.org/10.1515/iral-2022-0100>
- Matthews, J. (2018). Vocabulary for listening: Emerging evidence for high and mid-frequency vocabulary knowledge. *System, 72*, 23–36. <https://doi.org/10.1016/j.system.2017.10.005>
- Matthews, J., & Cheng, J. (2015). Recognition of high frequency words from speech as a predictor of L2 listening comprehension. *System, 52*, 1–13. <https://doi.org/10.1016/j.system.2015.04.015>
- McLean, S., Kramer, B., & Beglar, D. (2015). The creation and validation of a listening vocabulary levels test. *Language Teaching Research, 19*(6), 741–760. doi.org/10.1177/1362168814567889
- McLean, S., & Kramer, B. (2015). The creation of a new vocabulary levels test. *Shiken, 19*(2), 1–11.
- Mizumoto, A., & Shimamoto, T. (2008). A comparison of aural and written vocabulary size of Japanese EFL university learners. *Language Education & Technology, 45*, 35–51. https://doi.org/10.24539/let.45.0_35
- Rika, Aoki. (2022). Exploring the listening ability and vocabulary knowledge of Japanese university level learners of English. *The Bulletin of the Institute of Human Sciences, Toyo University, 24*, 189–200.
- Saito K, Uchihara T, Takizawa K, & Suzukida Y. (2023). Individual differences in L2 listening proficiency revisited: Roles of form, meaning, and use aspects of phonological vocabulary knowledge. *Studies in Second Language Acquisition.*, 1–27. [doi:10.1017/S027226312300044X](https://doi.org/10.1017/S027226312300044X)
- Shin, D., Lee, J. H., & Choi, W. (2023). An exploratory study of young EFL learners' aural and written receptive multi-word unit knowledge. *System, 114*, <https://doi.org/10.1016/j.system.2023.103029>
- Stæhr, L. S. (2009). Vocabulary knowledge and advanced listening comprehension in English as a

- foreign language. *Studies in Second Language Acquisition*, 31(4), 577–607.
<https://doi.org/10.1017/S0272263109990039>
- Taguchi, K., & Kaya, T. (2019). How Important is Aural Vocabulary Knowledge for Better Listening Comprehension in EFL Learners?. *The Economic Review of Toyo University*, 45(1), 123–133.
- Uchihara, T., & Harada, T. (2018). Roles of vocabulary knowledge for success in English - medium instruction: Self - perceptions and academic outcomes of Japanese undergraduates. *TESOL Quarterly*, 52(3), 564–587. <https://doi.org/10.1002/tesq.453>
- Uchihara, T. (2023). How Does the Test Modality of Weekly Quizzes Influence Learning the Spoken Forms of Second Language Vocabulary?. *TESOL Quarterly*. 57(2), 595–617.
<https://doi.org/10.1002/tesq.3176>
- Wallace, M. P. (2022). Individual differences in second language listening: Examining the role of knowledge, metacognitive awareness, memory, and attention. *Language Learning*, 72(1), 5–44.
<https://doi.org/10.1111/lang.12424>
- Wang, Y., & Treffers-Daller, J. (2017). Explaining listening comprehension among L2 learners of English: The contribution of general language proficiency, vocabulary knowledge and metacognitive awareness. *System*, 65, 139–150. <https://doi.org/10.1016/j.system.2016.12.013>
- 内原卓海. (2022). 「第二言語音声語彙習得と教授法」JACET SLA 研究会資料
- 内原卓海. (2023a). 「外国語リスニングに必要な音声語彙力の定義と測定」立教大学英語語彙習得シンポジウム資料
- 内原卓海. (2023b). 「カラフルな外国語学習を目指して:英語力向上のための単語学習とは」第74回埼玉県高等学校スピーチコンテスト資料
- 白畑和彦・富田佑一・村野井仁・若林茂則. (2019). 『英語教育用語辞典第3版』東京:大修館書店

資料

Listening Vocabulary Levels Test (LVLТ) の説明 (McLean et al., 2015)

The Listening Vocabulary Levels Test

これは単語力テストです。
 英単語と一緒に例文が読めます。読まれた英語の意味に最も合う日本語を a~d から選択してください。

アナウンスは一度だけ流れます。

問題例

1.
 a. 食べた
 b. 待った
 c. 見た
 d. 寝た

}

アナウンスの内容

waited: I waited for a bus.

正解は b です。

答えが全く分からない場合は、空白にしておいてください。
 しかし、わかる可能性があったら、どうぞ挑戦してみてください。

問題を練習しましょう。